



一緒に考える、居場所のこれから。

こどもの居場所づくり 意見交換会

こどもの居場所づくり 意見交換会 開催レポート (概要)

不登校など、学校に行きづらい子どもたちが地域の中で安心して過ごせる
居場所をつくるために、教育・福祉・地域のさまざまな立場の人たちと、
意見交換してみませんか？

開催日時 令和7年12月14日（日） 10:30～12:00 於：射水市内 約80名参加

令和7年12月17日（水） 10:30～12:00 於：富山市内（オンラインあり）
約100名参加

時間	内容	詳細
10:30	オープニング	「フリースクール運営実態調査」の結果報告
10:40	事例発表	<div>【射水会場】 一般社団法人なかのま 代表 宮田 隼 氏 Ponteとやま 代表理事 水野 カオル 氏</div> <div>【富山会場】 星槎フリースクール富山・魚津 代表 飯田 良智 氏 富山YMCA 総主事 上村 香野子 氏</div>
11:00	意見交換会	学校・福祉・保護者・支援者が垣根を越えて対話しました。小さな困りごとから明日から使えるアイデアまで、共有する時間となりました。 【ルール】多様性を認め、他人を否定せず、建設的な意見を交わすこと
12:00	閉会	

射水会場での意見交換内容（概要）

○居場所の運営事業者から

・保護者やこどもに居場所の情報が届かず、学校も積極的に民間の居場所を紹介しづらい（学校が不登校児童生徒への対応を放棄したとの印象を持たれる）状況がある。効果的なPRはどうあればよいか。

○保護者から

・「居場所」が県東部では少なく、県西部では多いとの調査結果があるが、不登校児童数との関係はあるか。

・コロナ禍での不安が家庭内に広がり、親の自己否定や不安がこどもの言動に影響する。大人同士がつながり、助け合う社会をこどもに見せることがこどもたちの安心につながる。

○教育関係者から

・現在、県内小中学校の36%に「校内教育支援センター」を設置。支援員の配置も進められている。実施主体の市町村と連携し拡充を図っていききたい。

○福祉関係者から

・コロナ期にこども時代を過ごした世代に自傷行為やオーバードーズが増えている印象がある。

○ファシリテーターから

・選択肢の多さは「機会の平等」に寄与するが、「一人ひとりに見合った公平性（安心）」を担保できているかが大切。



富山会場での意見交換内容（概要）

○居場所の運営事業者から

- ・こどもへの対応やこどもの状態（しんどさ・気分・能力）の見極めに難しさを感じている。
- ・利用料補助はありがたいが、県の様式とは異なる様式で利用実績の提出を求める学校があり、学校に利用実績を伝えるときに県の様式と学校の様式と2種類作成する必要があるため、事務が負担。

○保護者から

- ・情報が保護者に届きにくく、保護者の行動力や情報格差がこどもに影響している場合もある。

○教育関係者から

- ・県教育委員会から各学校に配布した「不登校児童生徒支援の手引き」を使い、フリースクール等の利用について、学校現場に理解を促進しているところ。

○福祉関係者から

- ・発達の特徴が強いこどもを同室で預かる場合、個別対応が難しい。

○ファシリテーターから

- ・居場所は空間だけでなく、伴走する人の存在も含んでいる。



アンケート結果（射水会場）

・県でこうした会を継続的に開催してもらえるとありがたい。活動内容や保護者のリアルな声を聞いたことは大きな学びで、今後の取組みに活かしたい。教育委員会との連携も期待したい。

（福祉関係、40代）

・持続可能な活動に向け、アイデアや助言、財政面などについて話し合える場があるとよい。

（居場所の運営事業者、50代）

・居場所を必要としているのは不登校の状態にある子どもだけでなく、また、家庭や親との関係に困難を抱えている子どもやSOSを出せずに苦しんでいる子ども、ネグレクト家庭の子どもなど親のサポートが得られなかったり、支援からこぼれてしまう可能性があったりすることもいる。地域で子どもを支える居場所（サードプレイス）の必要性を感じる。

（福祉関係、50代）

・居場所づくりをして4年になる。ニーズ、やりがい、楽しさがあるが、もっと充実させたい。今後、居場所づくりをしている方とじっくり意見交換できる場があるとうれしい。

（福祉関係、50代）

・これまで出会うことのなかった人とつながることができる良い機会となった。

（保護者、30代）

アンケート結果（富山会場）

・学校以外の居場所を見つけられず「こどもの居場所」について情報を求めて参加した。参加して県内にたくさんのフリースクール等があることを知ることができた。今回のように県から発信してもらえると助かる。

（保護者、30代）

・意見交換会の開催は画期的だと感じた。継続して開催されれば、県における不登校支援ネットワークが強化されると思う。また、不登校当事者や保護者の意見を聞いてくださったことも、とてもよかった。

（保護者、30代）

・同日に学校とフリースクールの両方に行くと、学校での出席となり、フリースクールにおける「出席扱い」とならない場合があり、県の通所支援事業の対象外となるため、葛藤しながら学校に連れていっている。もっと学校とフリースクールを行き来しやすい環境を整えてほしい。

（保護者、50代）

・うちの子は聴覚が過敏で、ざわざわしているところや大きな音がとても辛く感じる。そのため、居場所を訪れても利用を断念することが多い。一方で、オンラインではコミュニケーション能力が育めないのではと心配になる。このような特性の理解や周知を図るとともに、カームダウンスペース（静かに過ごせる場所）の設置努力もしてほしい。

（保護者、50代）